

## 第32回 第2章 現代の経済

### 第4節 福祉社会と日本経済の課題

# 社会保障と福祉

講師  
赤荻雅己

#### 学習のねらい

近年、社会保障の給付額が年々増えています。そもそも社会保障は何のため、誰のためにあるのか、そして日本の社会保障制度はどのようなしくみになっているのか、こうしたことを学びながら、今日社会保障制度が直面している課題を考えていきましょう。

調べておこう  
覚えておこう

社会福祉／生存権／公的扶助／ビスマルク／  
介護保険制度／ベバリッジ報告／社会保険／  
少子高齢社会／年金／後期高齢者医療制度

※下記の空欄 \_\_\_\_\_ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

#### POINT 1

### 社会保障は誰のためにある？

病気、失業、事故、老後の不安、困窮など人生にはさまざまなリスクや困難があります。社会保障とは、こうしたリスクや困難に対して、社会全体で備えようとする仕組みです。日本国憲法の25条では、すべての国民が「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を有すると規定しています。この権利を<sup>①</sup> \_\_\_\_\_ といいます。社会保障とは国がこの権利を保障する仕組み、と言い換えることができます。

産業革命後のヨーロッパで、工業化が進むと、働く人々の困窮や生活上のリスクが社会問題として意識されるようになりました。そうしたなか、19世紀後半のドイツで<sup>②</sup> \_\_\_\_\_ が、病気やけがの社会保険制度をつくりました。さらに20世紀になると、イギリスで<sup>③</sup> \_\_\_\_\_ が出され、生存権を保障する社会保障制度が初めてつくられました。「ゆりかごから墓場まで」をスローガンにしたこの制度は、第二次世界大戦後の各国の手本になりました。

#### POINT 2

### 日本の社会保障制度

日本の社会保障制度は「<sup>④</sup> \_\_\_\_\_」、「<sup>⑤</sup> \_\_\_\_\_」、「<sup>⑥</sup> \_\_\_\_\_」、「公衆衛生」の4つの柱で成り立っています。「<sup>④</sup>」は、いざというときの備えで、年金保険、医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険があります。「<sup>⑤</sup>」は生活困窮者に対する給付で、生活保護が中心です。「<sup>⑥</sup>」は児童、母子・父子家庭、障がい者、高齢者など、社会的弱者の自立をサポートするものです。「公衆衛生」は病気の予防や環境衛生の改善を図るので、自

治体の保健所が中心となっています。こうした社会保障の財源としては、「④」は保険料と税金で、「⑤」、「⑥」、「公衆衛生」は税金でまかっています。

POINT 3

社会保障制度の課題は何か

少子化と高齢化が同時に進行する<sup>⑦</sup> ..... となり、社会保障制度はさまざまな課題に直面しています。<sup>⑧</sup> ..... は、現役世代が高齢者を支える賦課方式をとっていますが、少子高齢化が進み、財政への過度な負担が指摘されています。そこで現役世代の保険料負担が重くなる一方、給付額の減少が危ぶまれています。すでに、給付が少額なために生活困難を強いられる高齢者のケースもみられます。医療は<sup>⑨</sup> ..... が導入されました。これは75歳以上の高齢者のみの独立した医療保険となり、税金、現役世代の保険料からの支援、さらには高齢者の自己負担でまかっています。また高齢者の介護として<sup>⑩</sup> ..... が2000年にスタートしました。40歳以上の国民が加入し、介護が必要になったとき、在宅、あるいは施設のサービスを受ける制度です。高齢化が進み、介護の需要は高まる一方ですが、介護で働く人の劣悪な労働条件、高い離職率などの課題が指摘されています。また財源不足を理由に、今後サービスの質の低下も危ぶまれています。

安心できる年金、医療、介護をどうやって保障したらよいか、そのための財源をどのようにして確保するのか、社会の連帯をどう維持していくのか、大きな課題となっています。

.....

①生存権	②ピアソル	③バウツ報告	④社会保険	⑤公的扶助	⑥社会福祉
⑦少子高齢社会	⑧年金	⑨後期高齢者医療制度	⑩介護保険制度		

答え